旧内子線に映える桜を夢見て――廃線路を保全する有志10人が植栽活動

廃線路の保全活動をしている有志10人が12月26日、旧内子線の廃線路沿いに桜の苗木20本を植えました。代表の川原徹也（てつや）さんは「10年後には立派な花を咲かせて、きれいな廃線路の風景になると思う。当時の状態で線路が残っているところは、四国ではほとんどなく珍しい。もっと内子町の人に知ってもらい、この近代遺産を子どもたちに残したい」と思いを語りました。

廃線路沿いで植栽活動をする有志の皆さん

伝統行事で地域の交流 町内各地で「どんど焼き」

正月飾りなどを持ち寄って焼き、新年の健康を祈る「どんど焼き」が、内子町内の各地で行われました。

寺村自治会愛護部が主催するどんど焼きは1月9日、花ノ木公園で行われ、約30人の親子が集まりました。愛護部長の水田直也（なおや）さんは「子どもたちが地域の伝統行事を知るいい機会。みんなで餅やぜんざいを食べて、どの家庭も幸せな1年になればいいですね」と話しました。

どんど焼きの炭で焼いた餅をぜんざいにして食べる

通報は「何が・いつ・どこで」を正確に 内子小の児童が1日通信指令官

110番通報の仕組みや正しい通報の仕方を広めようと「110番の日」（愛媛県警察本部、大洲警察署主催）の広報行事が1月9日、内子小学校で行われ、同校児童や保護者ら約600人が参加しました。

始めに「第50回交通安全子供自転車全国大会」で優勝した自転車チームの7人が1日通信指令官になり、テレビ映像でつながった県警本部の通信指令課に交通事故の状況や不審者情報などを伝える模擬通報を行いました。

次に行われた防犯教室では、大洲警察署員で構成する劇団「ＯＫＢ（オーケービー）」による寸劇が披露されました。児童たちは不審者に遭ったときの対処法などを楽しく学んでいました。生活安全課の佃和泰（かずひろ）警部補は「不審者の声掛けについての通報が多くなっている。危険を感じたら大きな声で近くの人に助けを求めて」と呼び掛けました。

最後に児童らが「110」の人文字をつくり、その様子を愛媛県警のヘリコプター「いしづち」が空撮して、「110番の日」をアピールしました。

1＿1日通信指令官として模擬通報する（左から）重岡拓郎（たくろう）くん、松浦龍之介（りゅうのすけ）くん、藤原有希（ゆうき）くん　2＿人文字の空撮写真（画像提供：愛媛県警察）

野球選手が保育園にやってきた 愛媛ＭＰが「野球体験教室」

ボールを投げる楽しさを教える髙原さん（右）

27年度に初の独立リーグ日本一になった、愛媛マンダリンパイレーツの野球体験教室が1月14日、五城保育園（宮岡貴子（たかこ）園長）で行われ、髙原和弘（かずひろ）投手とマスコットのマッピーが来園しました。園児たちはストライクゲームとバッティング体験をしたほか、髙原さんと一緒にじゃんけん列車をして遊びました。髙原さんは「野球の魅力を伝えながら、楽しい時間が過ごせた」と笑顔でした。

春の七草、全部見つけたよ 内子児童館で恒例の「春の七草探し」

「ここにあるよー」うれしそうに摘み取る小学生

子どもと高齢者の交流や地域の食文化を伝えることを目的に「春の七草探し」（内子児童館、内子自治センター共催）が1月16日、内子児童館などで行われました。

60人の参加者は沖田の田んぼで七草を探した後、児童館で七草がゆを食べました。小田地域から親子で参加した佐野裕美子（ゆみこ）さんは「初めてだったけれど、全部探せてよかった。七草がゆもおいしい」と満足そうでした。

日本人の「和の精神」に感動――竹田恒泰さんが内子座で講演会

日本人の素晴らしさを語る竹田さん

作家やタレントとして活躍している竹田恒泰（つねやす）さんを講師に迎えた「気軽に文化講座 in 内子」が1月16日、内子座で開かれました。竹田さんは「日本はなぜ世界で一番人気があるのか」をテーマに講演。日本の歴史に宗教戦争がないことや、東日本大震災を譲り合うことで耐え抜いた人々の姿などを例に「今、人類が必要としているのは、日本人の『和の精神』だ」と説きました。

新春の喜び響く17音 「第39回内子町新春俳句大会」

選句する参加者の皆さん

恒例の新春俳句大会（内子町文化協会主催、水口盛壽（もりとし）会長）は1月17日、共生館で開かれ、町内外の愛好家など64人が参加しました。参加者の中には、年末から書きためた100以上の句から、より心情や情景を表現した一句を慎重に選んでいる人もいました。最優秀賞にあたる内子町長賞を受賞したのは、清水禎子（ていこ）さん＝大洲市＝の「前向きなあなたが好きです黄たんぽぽ」でした。